

令和5年度 学校評価（星城高等学校）

建学の精神	彼我一体：報謝の至誠 文化の創造 世界観の確立		
教育目標	“感謝のできる”実践力に富んだ逞しい人間の育成		
学校経営方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建学の精神の具現化を目指し、「“感謝のできる”実践力に富んだ逞しい人間の育成」に取り組む。その中で「礼節」「進学」「スポーツ」「国際交流」「英語」に重点を置き確実に進展させる。</li> <li>・明德コースの探究学習について学校全体で取り組み充実を図る。県内の全中学校・中学3年生に対し、明德コースの取り組みについてを周知徹底する。</li> <li>・仰星コース、特進コースについては、学力の向上、進路実績の充実を図る。</li> <li>・新入生500名以上を確保する。</li> </ul>		
重点目標	<p>I 礼節：教職員が率先して行動することで、生徒の「礼節・感謝」の徹底を目指す。</p> <p>II 進学：進路指導を充実させ、昨年度を上回る進路実績を目指す。</p> <p>III スポーツ：全国大会出場生徒数100名を目指す。</p> <p>IV 国際交流：新たな交流国を探すと共に現交流国と親交を深める。</p> <p>V 英語：各コースにおいて検定等の目標を明確にして、英語の星城を一歩すすめる。</p> <p>VI 明德コース：探究学習の充実を学校全体で取り組むと共に広報活動を徹底する。</p>		
重点目標	評価項目	担当	具体的方策《数値目標》
I	挨拶・身だしなみに対する意識の向上	1学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○朝のSTでの挨拶指導で、挨拶と共に身だしなみについても生徒から確認の声掛けをすることで、生徒同士で注意をし合う雰囲気を作る。</li> <li>○授業での号令に「服装を正して」という言葉を入れるよう統一することで、服装を正すことの意識を高める。</li> <li>《服装頭髪検査における継続指導該当者が全体の5%以下》</li> </ul>
I	テスト実施の在り方	教務部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○厳正な態度を持って定期テストに臨むよう、ホームルーム等で生徒に指導する。</li> <li>○テスト毎に「テストに関する注意事項等」を配信し、不正行為が起きない環境作りに努める。</li> <li>《テスト時のトラブルゼロ》</li> </ul>
I	交通ルール遵守マナーの向上	生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○登下校時に校門にて生徒へ挨拶を行い、礼節を啓発していく。</li> <li>○愛知県警愛知署主催の「200日間自転車無事故・無違反ラリー」に参加し、交通ルール遵守を喚起していく。あわせて、このラリー期間中に、歩行通学者に対しても交通安全とマナーを喚起していく。</li> <li>○各学期の始業式後や講話などを利用して、生徒指導部から建学の精神に触れ、生徒へ礼節と感謝が自身の行動に良い変化を与えていくことを説諭していく。</li> <li>《ラリー期間中の自転車と車の接触事故ゼロ》</li> </ul>
I	健全な心身の育成	保健部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年で実施する教育相談講話の内容を充実させる。</li> <li>第1学年では、さまざまな「性」について深く理解させて、周囲に対象者がいることを前提にした発言や行動を考えさせる。</li> <li>第2学年では、「生命」への意識を向上させるために、異性との関係や正しい性の知識と行動を身につけるように考えさせる。</li> <li>第3学年では、人と人との関わり合いの中で、互いを大切にす気持ちと相手を尊重する心を考えさせる。</li> <li>○保健部便り（教育相談関連）『はーとん』を発行し、生徒の心の健康を啓発する。</li> <li>○各講話終了後のアンケート調査で、生徒の理解度が90%以上》</li> </ul>
I・II	個人面談の実施回数	2学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個人面談をこまめに行い、生徒の進路についての意識を高めるとともに生徒の希望をより具体的なものとするための情報を提供したり、動き出しの鈍い生徒に対して動き出しを促したりするなどのサポートを展開する。</li> <li>《各学期2回以上》</li> </ul>
II	学習習慣の定着と意欲の向上	1学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スタディーサポートの事前シートや振り返りシートを積極的に活用することで、学習に対する意識を高める。</li> <li>○朝の10分間学習を通して、学習習慣と基礎学力を身に付けさせる。</li> <li>《仰星・特進・アスリート：GTZのBゾーン以上の生徒35%以上、明德：Dゾーン以下の生徒60%以下》</li> </ul>
II	模試偏差値の向上	2学年 (2号館)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○得意教科の向上と苦手教科の克服に向けて、集団の学力に合わせた課題設定や居残り学習などの指導を行うとともに、教員間で情報共有を密にすることで苦手分野へ学習方法などの声掛けを行う。また、各模試における目標設定を明確にして段階的に学力を高めさせる。</li> <li>《5科目偏差値50.0以上「25%」》</li> </ul>
II	評定平均値の向上および検定受検の促進	2学年 (本館)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○担任・教科担当で連携をとり、朝学習や小テストなどに取り組む姿勢を高めることで、定期テスト期間以外での学習習慣のさらなる定着を図る。</li> <li>○各種検定に対して、積極的に挑戦するように働きかける。</li> <li>《評定クラス平均値の上昇、各種検定受検総数100名以上》</li> </ul>
II	進路指導の充実	第3学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○仰星・特進・アスリート特進コースにおいては、第一志望合格を目指して取り組む生徒の支援を、個人面談を通してきめ細かく行う。進路目標に違いはあるが、集団として共通テストに向けた学習を進めるように集会等を通して指導する。</li> <li>○星城大学、星城大学リハビリテーション学院のリハビリテーションへの進路を希望するものに、大学・専門学校と協力して面談等を行い内部進学を早期に勧める。</li> <li>○総合型選抜・学校推薦型選抜入試の出願先を、個人面談を通じて早期に決定させ、その必要性を説くことで昨年度に引き続き積極的に参加するよう指導する。</li> <li>《内部進学者 35名、小論文講座・志望理由書書き方講座受講 150名以上、指定校推薦50名、共通テスト出願者2号館100%》</li> </ul>
II	業務改善	教務部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ICTを有効活用し、一つひとつの業務の見直しを進め日常業務の効率化を図る。また、生徒指導要録の電子化を最重要課題とし、作成に関する注意事項を周知徹底する。</li> <li>○新学習指導要領の変更に伴う観点別評価について、評価や処理の仕方をよりよいものになるように改善をしていく。</li> <li>《業務改善の実施事案 5つ》</li> </ul>
II	学習習慣の定着と進路目標の早期設定・進学実績の向上(1年)	進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1年生：英検、漢検、教検に積極的に挑戦させる。そのため、コース別集会において進路における検定の重要性を伝えながら、クラス担任による個別面談に繋げていく。</li> <li>○進研総合学力テスト11月結果データをまとめて保護者会の資料を作成し、コース選択の資料に活用して学習意欲向上に繋げる。</li> <li>《英検受験150名、漢検受験150名、教検受験30名》</li> <li>○仰星コース：学習習慣の定着と学習意欲の継続のため、スタディーサポート事前シート・活用BOOKを使用して到達目標を設定し、学習計画を立案させる。また、結果を基にした事後の振り返りシートを使用して、自己の学力状況を把握させ、第2回に繋げる。</li> <li>《担任による生徒面談を年間4回以上実施する。GTZ：S→20% A→60% B→20%(1学年61名中)》</li> <li>○特進・アスリートコース：コース別集会、個別面談を複数回実施し進路目標設定の動機付けを行い、国公立大学・難関私大を視野に入れた進学指導を施すとともに、地方国公立にも目を向けさせる。</li> <li>《ベネッセ総合学力テスト11月英国数3教科総合偏差値50以上が30名以上》</li> <li>○明德コース：基礎学力の定着を図り、各種検定試験へ積極的に挑戦させる。</li> <li>《進級時のGTZのDゾーンを60%以下》</li> </ul>

重点目標	評価項目	担当	具体的方策≪数値目標≫
II	学習習慣の定着と進路目標の早期設定・進学実績の向上(2年)	進路指導部	<p>○2年生：進研総合学力テスト11月結果データをまとめて保護者会の資料を作成し、進路選択の資料に活用して学力向上に繋げる。各種検定に積極的に挑戦させる。  《英検受験200名、漢検受験100名、教検受験10名》  ○仰星コース：早い段階で各自の得意・不得意科目や学習時間・学習スタイルを把握・振り返らせ、入試を意識した計画を立案させる。  《ベネッセ総合学力テスト11月において、国英数総合偏差値50以上が30名。(2学年46名中)》  ○特進・アス特コース：早い段階で各自の得意・不得意科目や学習時間・学習スタイルを把握・振り返らせ、入試を意識した計画を立案させる。  《ベネッセ総合学力テスト11月において、英国数、英国社、英数理いずれかの3教科総合偏差値50以上が30名以上》  ○理・文コース：担任・教科担当が連携をとり、朝学習や小テストなど、定期テスト期間以外の学習習慣の定着を進めて評定平均値を上昇させる。  《評定平均値 クラス平均の上昇》  ○多様な進路獲得の実現に向けて各種検定を積極的に受験させる。  《各種検定 総受験者数100名以上》</p>
II	学習習慣の定着と進路目標の早期設定・進学実績の向上(3年)	進路指導部	<p>○3年生：スタディーサポート等のデータを基に面談を行い、進学・就職の目標を達成するための一助とする。  《仰星GTZ B2以上50%、特進・アス特GTZ B2以上50%、理・文GTZ Dゾーン50%以下》  ○仰星・特進・アス特コース：学級担任による面談の回数・内容を充実させ、志望校合格に向けた「受験プラン」を早期に立てさせる。また、全員が共通テスト5教科型を受験し、国公立大学出願の可能性を広げる。  《国公立大学出願数70名以上、国公立大学合格者20名》  ○理・文コース：進研模試結果6月をもとに保護者会で目標設定をし、推薦基準となる9月の模試に向けた動機付けをしっかりとらせる。星城大学、星城大学リハビリテーション学院合わせ、内部進学を早期に始める。総合型選抜・学校推薦型選抜入試の出願先を、個人面談を通じて早期に決定させ、その必要性を説き各種講座に昨年度に引き続き積極的に参加するよう指導する。  《内部進学者 35名、小論文講座・志望理由書き方講座受講 150名以上、指定校推薦50名》</p>
II	探究学習(グローバル探究)の充実	探究部(仰星・特進コース)	<p>○仰星・特進コース全学年の「総合的な探究の時間」において、グローバルな視点を持ってローカルな課題(地域課題)を解決する活動を実践することで、さまざまな立場の豊明市民が輝く新たな架け橋をつくれるように、授業内容の充実を図る。  ○グローバル探究を通して主体的・協働的に取り組む態度を育成し、それが大学受験等に向けた学習においても自ら学びに向かう姿勢として表れるように導く。また、地域との協働において、地域課題解決に取り組むことで社会貢献に対する意識を高め、自らの進路選択に真剣に向き合うように導く。  《ループリック4段階自己評価の集計 A:主体性と協働力の両項目でレベル4と3の生徒が半数以上 B:どちらかの項目でレベル4と3の生徒が半数以上 C:主体性と協働力の両項目でレベル2以上の生徒が半数以上 D:どちらかの項目でレベル2以上の生徒が半数以上》</p>
III	強化部の入学生徒増加と人間性の向上指導	部活動支援	<p>○「スポーツの星城」の推進を図るために、広報部及び各顧問との連携を強化する。具体的には、生徒募集の現状を把握して問題の解決を図り、強化部の入学生徒増を目指すとともに全国大会(選抜・総体・国体)出場者が増えるように支援を行う。  ○日々の部活動指導を通じて、「本校が求める強化クラブ・スポーツ奨学生のあるべき姿」を生徒自身に考えさせ、具現化を目指すと共に、人間性と技術面の向上を図る。  ○周囲の方々から応援していただける部活動運営や生徒育成に向けて、庶務・国際交流部と連携し、ボランティア清掃参加呼びかけや実施などのサポートを行う。  《部活動の生徒募集による入学者数110名確保/全国大会出場生徒数100名》</p>
III	部活動ガイドラインに則った部活動運営の把握と管理	部活動支援	<p>○各クラブの活動計画に基づいて部活動の現状を把握し、運営・管理を徹底する。  ○「部活動指導ガイドライン」や「部活動に係る活動方針」に則った部活動の運営を徹底し、体罰等のない健全な部活動運営を行う。  ○部活動施設の設備の点検など安全管理を徹底し、事故発生の防止に努める。  《部活動における不祥事0件》</p>
III	NPOスターアカデミー活用の模索	NPO	<p>○NPOスターアカデミーの現状を確認・把握し、本校でどのように活用できるか模索する。  ○他校における事案・事例を調査し、本校に合った企画を立案する。  ○部活動・進学講座・その他の3方面の視野で模索する。  《活用企画の提案2企画以上》</p>
IV	交流国と親交を深める	庶務・国際交流部	<p>○新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和されるのを受けて、海外の高校生や同世代の若者と本校の生徒の間でオンライン交流や直接的な親睦を深める企画を立案する。  《オンラインまたは直接的な交流回数がA:4件以上、B:3件、C:2件以下》</p>
IV	留学生の受け入れと派遣	庶務・国際交流部	<p>○1か年留学生や短期留学生、交換留学生の受け入れと派遣を、業者や豊明市国際交流協会などの協力を得ながら再開・充実させることができるように企画する。  《A:短期留学生の派遣ができた、B:1か年留学生および短期留学生の受け入れができた、C:派遣および受け入れができなかった》</p>
VI	探究学習(未来探究)の充実	探究部(明德コース)	<p>○1・2年の「総合的な探究の時間」において、社会未来探究と世界未来探究のカリキュラムを開発し、その授業を実践する。  ○1年はSDGsを通して社会課題を自分事として捉え、その原因や解決策の検討などに協働して取り組む態度を育成する。  ○2年はフィールドワークによる情報収集を通して自分の意見をまとめ、発表などによる内容の共有を通して課題の解決に協働して取り組む態度を育成する。  《ループリック4段階自己評価の集計 A:主体性と協働力の両項目でレベル4と3の生徒が半数以上 B:どちらかの項目でレベル4と3の生徒が半数以上 C:主体性と協働力の両項目でレベル2以上の生徒が半数以上 D:どちらかの項目でレベル2以上の生徒が半数以上》</p>
VI	明德コースの活動を広報する	広報部	<p>○中学校訪問・保護者対象説明会・学校見学会などでブログを閲覧していただくように促すことで、学校のさまざまな活動に興味や関心をもっていただく。  《各説明会でQRコードを配付する。》  ○愛知県下の中学3年生に対して、6月にはパンフレット、9月には明德コースリーフレットを配付し取り組みを広報する。  《重点校155校の中学3年生全生徒に配付する。》</p>